

## テレビに子守りをさせないで

岩佐京子という方が「テレビに子守りをさせないで」という書物を書いて、世のお母さん方に警告を発しています。テレビを見せておけば、独りでおとなしく見ているので、親の手が省けてよい、というので、テレビに子守りをさせている親が多いが、テレビに子守りをされて育った子供は、言葉の発達に支障のある者が多い、というのです。

テレビを見せておけば、人間の言葉を聴く機会も多く、早く言葉を覚えて、良い影響があるのではないか、そう思われそうですが、しかし現実には、“自閉症”的な子供が多く作られているのです。

最近、この自閉症的症状を示す子供が多くなっていますが、自閉症とは、人間の声に対して反応しない、一種の精神病とも言える恐しい病状で、そのため人間性が育たず、結局人間として失格者になってしまうものです。

私も、何人かのこういう子供の治療に当たりましたが、人間の声に反応しないので、教育のしようがない、というのが本音です。一旦こういう子供になったら、なかなか治すのが困難です。ところが、テレビを家か

ら追放してしまったら治った、という実例が多いのです。

そうしてみると、テレビに原因がある、と言わざるを得ないでしょう。私は、その原因を、次のように推定しています。

人間の声を、人間は左側の脳で受け取っていますが、その他の音は、右側の脳で受け取っています。人間の声は、その他の音と違って、やりとりするものです。人間の心を表現したものですから、人間の声から人間の心を感じ取らなくてはなりません。

そういう大事な働きを持った人間の声は、その他の音と違った反応がすぐに取りれるように受け取る場所が、全く別になっているのだ、と思われるます。